

---

---

## 挨拶

今日から始まるグローバル COE のシンポジウムの開催に当たり、その成功を祈念しつつ、ひと言文学研究科を代表して挨拶を申し上げます。

また、今回の国際研究集会に参加されている内外の研究者の方々を文学研究科にお迎えすることは、私どもにとってたいへん光栄なことであり、研究科の歴史に新たな1頁を加えることとなります。

いうまでもなくこのグローバル COE は5年間続けられた21世紀 COE の学術的成果を受け継ぎ、さらにテキスト学を発展させ、加えて先端的研究を将来にわたって担うことができる若手研究者を育てることに置かれていました。この10年間拠点リーダーとして、この研究・教育プログラムを牽引してこられた佐藤彰一教授、教育・研究の両面から佐藤教授をサポートされてきたサブリーダーの松澤和宏教授と釘貫亨教授の献身的な活動に対して、研究科として改めて感謝の意を表したいと思います。さらに、このプログラムに参加されてきた名古屋大学の教員・関係者の皆さんへも合わせてお礼申し上げたいと思います。

今日から2日間開催される『哲学的解釈学からテキスト解釈学へ』と題する国際研究集会は、2007年9月に開催された第1回から数えて13回目にあたります。4年半で13回もの国際研究集会を名古屋大学だけではなく、ヨーロッパにおいても開催されてきたご努力と熱意、持続的な研究への取り組みに対しても、高い評価が与えられてきたことは言うまでもありません。

グローバル COE の目標は、21世紀 COE プログラムで達成されたテキスト学の成果をふまえ、それを活用して「先端的でかつ新たな学問的地平を切り開く能力と素養を身につけた若手研究者を育成する」ということであると宣言されています。また、「それぞれ異なる言語で話され、かつ書かれたテキストを解読するための堅固な技術を習得することと並んで、テキストが一つの布置構造を形成して存在していることを理解しかつ前提として、所与の対象に取り組む若手研究者を養成する教育システム構築を目指している」ともうたわれています。

こうした目標の下、テキスト読解の基礎的能力を確実に備えた、しかも国際的に通用する高い水準を有した若手研究者を育成するためのさまざまな教育実践の取り組みがなされてきました。大学院学生の海外派遣事業、グローバル COE 論文賞、国際研究集会での発表、博士課程後期課程における大学院共通科目「テキスト布置解釈学概論」「各論」の開講などがそれにあたります。こうした教育実践の中から、優秀な若手研究者が育ちつつあることは皆さん実感しておられることだと思います。2010年度には現天皇の支援を得て始められた日本学術振興会の育志賞に考古学の市川彰さんの、メソアメリカ古典社会の形成過程の研究が選定されました。全国で文系・理系合わせて26名ですから、きわめて高い評価を受けての受賞でありました。市川さんの研究もグローバル COE プログラムにおける大学院学生海外派遣事業の支援を受けての研究でした。こうした顕著な研究成果が今後もこのプログラムに参加した学生の中から発信されることを期待されます。

最後になりましたが、皆様ご承知の通り、拠点リーダーの佐藤先生におかれては、2002年に『修道院と農民』で学士院賞を受賞され、2009年には日本学士院会員に選定されました。さらに、今年に入って「フランス学士院碑文・美文アカデミー連携会員」という榮譽を受けられました。佐藤先生は1987年に名古屋大学文学部に赴任され、2009年に退職されるまで、二十年を超える長い期間にわたって、さらに退職後は特任教授として、文学研究科の教育と研究の発展に、さらにテキスト科学の構築に中核的な役割を果たして

---

こられました。ここに改めて、研究科としてお礼を申し上げるとともに、この間の教育と研究の成果が後進の研究者・学生に着実に受けつがれていくことを確信しつつ、ご挨拶を終えたいと思います。

名古屋大学大学院文学研究科長 羽賀祥二